2-1 川の基礎用語事典①
川の左右、川の内外

川の両岸。左と右ってあるの？

川の上下は明らかです。水は上（高いところ）から下（低いところ）へ流れることから、山側の高いほうを上流、海側の低いほうを下流と呼びます。

では、川に左右があるのでしょうか？　もちろん川にも左と右が決まっています。川の流れの方向（下流）に向かって右側を右岸（うがん）、左側を左岸（さがん）と呼んでいます。右岸、左岸の呼び方は日本も外国も同じようです。

テレビドラマにもなった『岸辺のアルバム』（山田太一著）をご存知でしょうか？　昭和 49（1974）年の多摩川堤防決壊（台風 16 号）をテーマにした物語です。ちなみに、この洪水で決壊したのは左岸堤防でした。

川の範囲はどこまで？

普通、川というと水の流れている部分を思い浮かべるのではないでしょうか。やはり川と水の流れは切ってもきれないものなのでしょう。

一方、法律的には、堤防そのものと、左右岸の堤防に挟まれた範囲、ふだんは水が流れていない部分もすべて含めて川（正しくは河川区域）と呼びます。

ふだんの川の水は川のなかの低いところを流れています。これを「低水（ていすい）路（ろ）（または低水敷（ていすいじき））」と呼び、このような水の流れの状態を「低水時」と呼びます。

一方、大雨が降って水かさが増えてくると川全体に水が流れるようになります。このような水の流れの状態を「高水（こうすい、または、たかみず）時」と呼び、高水が流れるところを「高水敷（こうすいじき）」と呼びます。

株式会社建設技術研究所　http:/www.ctie.co.jp/
Copyright ⓒCTI Engineering Co., Ltd. All Rights Reserved.

高水敷は河川敷とも呼ばれ、動植物の貴重な生息場所であるとともに、ふだんは公園や運動場など人々の憩いの場としても利用されています。

川のなかと外、堤防の内と外

堤防は、洪水を川の外にあふれさせず、水害から人々を守るための構造物です。堤防の内外をいう場合、水の流れている川のなかを「堤外地」、宅地などがあり私たちが生活している川の外を「堤内地」と呼びます。つまり洪水の時には、人々は堤防によって流れてくる水から守られており、人々を中心として考えた場合には、堤防の手前の自分たちのいるほうが「内」、堤防の向こう側（川のなか）が「外」となります。この考え方から、洪水の流れる川のなかを堤外地と呼ぶようになったといわれています。

木曽三川（木曽川、長良川、揖斐川）の下流地帯にある「輪中堤」をご存知でしょうか？　輪中堤とは村落などの地域全体を堤防で囲み、洪水からこの「なかの人々」を守る役割をもつ堤防のことです。この堤防を見れば、「川のなかが堤外地」という説明も納得できるのではないでしょうか。

株式会社建設技術研究所　http:/www.ctie.co.jp/
Copyright ⓒCTI Engineering Co., Ltd. All Rights Reserved.